

# 衆議院災害対策特別委員会ニュース

平成 24.7.25 第 180 回国会第 11 号

7月25日(水)、第11回の委員会が開かれました。

## 1 理事の辞任及び補欠選任

- ・理事の辞任を許可し、補欠選任を行いました。

辞任 理事 石原 洋三郎君(生活)

補欠選任 理事 金子 健一君(生活)(理事石原洋三郎君今25日理事辞任につきその補欠)

## 2 平成 24 年梅雨期の大雨による被害により亡くなられた方々に対し、黙祷をささげました。

## 3 派遣委員からの報告聴取

- ・平成24年梅雨前線による大雨の被害状況等調査のため、熊本県に派遣された委員を代表して馬淵委員長から、福岡県及び大分県に派遣された委員を代表して市村浩一郎君から、それぞれ報告を聴取しました。

## 4 災害対策に関する件(平成 24 年梅雨期の大雨による被害状況及びその対応について)

- ・中川国務大臣(防災担当)から説明を聴取しました。
- ・中川国務大臣(防災担当)、後藤内閣府副大臣、佐々木農林水産副大臣、岩本農林水産副大臣、柳澤経済産業副大臣、奥田国土交通副大臣、郡内閣府大臣政務官、稲見総務大臣政務官、津田厚生労働大臣政務官、中根経済産業大臣政務官、津川国土交通大臣政務官、高山環境大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行いました。

(質疑者及び主な質疑内容)

### 打越 あかし君(民主)

- ・この数年、九州地方で相次ぐ記録的短時間大雨情報に結びつくような集中的な強雨について、気象庁はどのように分析しているのか。また、今後の頻発にどのように備えるべきか。
- ・今回の大雨では被害が長期にわたり、数次にかつ色々な地域で発生したが、激甚災害の指定については、被害が基準に達する地域から順次指定するのか。被災地では一括した早期の指定が望まれているが、政府としてはどのような考えに基づき指定をするのか。また、いつ頃指定される見通しか。
- ・今回の大雨により相当数の住民に避難指示及び勧告が出されたが、特に災害弱者の多い高齢化・過疎化地域において、避難の誘導や支援はうまくいったのか。また、自主防災組織は整備され、機能していたのか。

### 楠田 大蔵君(民主)

- ・被災地では、土砂災害の恐れ等により避難勧告がなお継続している地域もあるが、生活環境の改善など避難所における支援は行われているのか、伺いたい。
- ・高低差のある桂川・筑後川の境に設けられた逆流防止の堤防がもとの流れをせき止め水が溢れてしまうという慢性的な状況があるが、これを防ぐ内水排除施設の設置要望について国土交通省としてどう考えるか。

- ・夏の収穫期に向けた被災地における農業用施設の復旧のために迅速な措置をとるべきではないか。また、農業災害補償制度による共済の対象とならない作物の被害について、どのような救済措置を考えているのか。

### 望月 義夫君(自民)

- ・平成22年度に稲葉ダムが完成していた稲葉川流域と、玉来ダムが未完成だった玉来川流域では、今回の大雨による被害にどの程度の差があったのか。
- ・民主党は「ダムに頼らない治水」を目指し、政権交代後に検証する間は各地のダム建設事業を凍結したことから、玉来ダムの建設事業にも2~3年の遅れが生じた。同ダムの工事は再開しているが、遅れを取り戻すよう急ぐべきではないか。
- ・民主党の検証により12ものダム工事が凍結されているが、降雨量の変化等も踏まえ、中止と判断されたダム工事も含めて建設の是非を見直すのか。また、検証により事業に遅れが生じたダムについても、完成を急ぐ必要があるのではないか。

### 谷 公一君(自民)

- ・民主党の行政刷新会議による事業仕分けにおいて、ダムを含む治水事業は「10~20%予算要求を縮減すべき」との結論がワーキンググループで出されたことを受け、実際に河川・砂

防等の予算要求は10%削減されたが、これで日本の治水は守れるのか、中川防災担当大臣の所見を伺いたい。

- ・激甚災害の指定は、公共土木施設、農林水産業、中小企業など個別の項目毎に縦割りとなっており、制度の対象とならない被災施設もあるなど問題点も多いことから、政府が行っている災害対策法制全般の見直しに激甚法も含めるべきではないか。
- ・気象庁の「平成24年7月九州北部豪雨」という命名について、現地には違和感があるが、名称を見直す可能性はあるか。

### 坂本 哲志君(自民)

- ・九州では梅雨明けの1～2週間前に豪雨があるのが通常のパターンである。被害を最小限にするためには住民に対し、梅雨の末期に豪雨に関する細やかな情報の提供や災害に関する注意を促す必要はないか。
- ・九州北部豪雨では、「これまでに経験したことのない大雨」という気象予報の発表があったが、この発表の前に既に自治体は避難勧告や避難指示を出しており、また、土砂崩れもその気象予報の発表以前に発生していた。気象予報の発表方法を改善する必要はないか。
- ・7月初旬から3回にわたって豪雨があったが、どこまでの期間を激甚災害に指定するのか。期間をできるだけ幅広く捉える必要はないか。

### 岩屋 毅君(自民)

- ・同様の被災をしている場合でも、被災者生活再建支援法が適用される地域と適用されない地域がでていますが、多くの被災者を救済するために柔軟な運用をする必要があるのではないか。
- ・今回の豪雨で多数の農林漁業者や零細企業に被害が出ているが、事業再開のために天災融資法の発動及び政府系金融機関による支援が必要であるが、政府はどのような対応をとるのか。
- ・山国川はダムがあったのににもかかわらず、今回の豪雨で2回も氾濫を起こした。ダムの水量調整が適切だったかの分析をすべきと考えるが、国土交通省の見解を伺いたい。

### 木村 太郎君(自民)

- ・竜巻やゲリラ豪雨による狭い範囲での災害にも生活再建支援法が適用できるように災害の実態に即した見直しが必要ではないか。
- ・7月の青森県の竜巻によるりんご被害に対する政府の対応はどのようになっているのか。
- ・抜本的な対策をとるために、河川の整備計画を見直す必要があるが、見直しの予定はどうなっているか。

### 福嶋 健一郎君(生活)

- ・中川防災担当大臣は、7月13日に熊本県の被災地を視察されたが、九州北部豪雨による被害及び自衛隊等の救援活動に対する率直な感想を伺いたい。
- ・今回の災害では、熊本県において甚大な被害が発生しており、野田総理大臣も農地について早期の激甚災害指定に言及しているが、実際の指定がいつ頃になるのか、目途を中川防災担当大臣にお尋ねする。
- ・被害の大きかった阿蘇地方は観光地帯であり、今回の災害による直接的な被害を受けたのみならず、今後の風評被害も懸念される。国の観光政策において阿蘇はどのように位置付けられており、今後どのような対策をとるのか伺いたい。

### 古賀 敬章君(生活)

- ・激甚災害指定に際しては、災害を特定することが必要となるが、今回の九州北部豪雨については、地理的、また時間的な範囲をどのように考えているのか伺いたい。
- ・豊肥線をはじめとして鉄道に大きな被害が出ており、JR九州の経営への影響も懸念される。災害による被害を受けた鉄道事業者へは、どのような支援があるのか国土交通省にお尋ねする。
- ・今回の災害で発生した廃棄物については、自治体にとって処理費用の負担が大きな問題となるが、国としてどのような制度で、どのように対応するのか伺いたい。

### 石田 三示君(生活)

- ・今回の河川の氾濫については、橋脚にからまった流木等が流れを阻害して水位が上昇したことも原因ではないかと思われる。河川の氾濫と上流にある橋との関係について、どのように状況を認識しているかお尋ねする。
- ・今回の災害におけるボランティアの活動状況はどのようであったか伺いたい。
- ・高校生や大学生のボランティア活動については、これを推進するためにも、生徒や学生の評価として取り入れるべきであると考えているが、どのような施策をとっているか伺いたい。

### 江田 康幸君(公明)

- ・有明海に流出した大量のヘドロが広範囲に堆積しており、海苔やアサリなどへの被害が心配されていることから、除去方法を含め、早急に支援措置を講じる必要はないか。
- ・今回の大雨により甚大な被害が出ていることから、自治体の超過負担が生ずることのないよう仮設住宅の建設に要する費用の限度額を引き上げるなど災害救助法の救助基準や救助内容については、弾力的な運用をすべきではないか。
- ・山林が荒廃する中、土砂災害による被害を軽減するために、防災・減災を目的として、森林整備などの治山対策を進める

べきと考えるが、中川防災担当大臣、農林水産省に見解を伺いたい。

### **赤 嶺 政 賢君（共産）**

- ・災害救助法による救助の期間は、例えば障害物の除去は災害発生の日から 10 日以内と定められているが、今回の豪雨災害では、救助の期間について特別基準を適用すべきではないか。
- ・住宅に汚泥臭で住めなくなり、やむを得ず解体したとしても、一部損壊の認定では被災者生活再建支援法による支援が受けられないとされていたが、被害認定基準の見直しは行ったのか。また、支給額を引き上げる検討をすべきと思うが、如何か。
- ・今回の災害で有明海にも泥が流れ込み海苔の加工施設が被害を受けたが、海苔の産地を守るためにどのような施策を講じるのか。

### **重 野 安 正君（社民）**

- ・今回の災害について激甚災害指定の見通しと、その指定の期間はどのように考えているか。
- ・今回の災害では、玉来川流域で被害があり、地元住民からは玉来ダムを早く作ってほしいと要望があるが、政府はどうか。
- ・今回の災害で水田が壊滅的な被害を受け、農業の基盤である農業用水路も大きな被害を受け、速やかに修復する必要があるが、農林水産省の見解を伺いたい。

### **柿 澤 未 途君（みんな）**

- ・今回の土砂災害を見ると、土砂災害が起きそうな場所の直下に人が住んでいるが、なぜこのような場所に住宅が建っているのか、見解があれば伺いたい。
- ・土砂災害警戒区域及び特別区域の設定により、どのような防災上の効果が期待されているのか伺いたい。
- ・大雨が発生し土石流が起こった後に、気象庁は「これまでに経験したことのないような大雨になっている」と警戒を呼びかけたが、このような時系列になったのはなぜか。